

【高等学校用】

令和5年度学校評価計画

学校名	佐賀県立鹿島高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>・「学力の向上」については、概ね指標を達成することができたが、引き続きわかりやすく、学習意欲が向上するような授業の実施を通して学力の向上を目指し、かつ多様な働きかけを通して社会に貢献する志を持つ生徒を育成していきたい。</p> <p>・「心の教育」については、他者や諸文化の理解や体験活動含む様々な取り組みを行い、生徒の自己有用感の期首と比較した「向上」を目指す。また、いじめアンケートのあり方の再検討及び相談しやすい環境がないと感じる生徒にとっても相談できる環境のあり方を検討し、早期発見、早期対応の体制の充実を図っていききたい。また、指標については「いじめ防止基本計画」そのものではなく、それに基づく具体的な取り組みについて設定することも検討したい。</p> <p>・「健康・体づくり」については概ね指標を達成することができたが、保護者や家庭との協働による取り組みを検討したい。</p> <p>・「業務改善・教員の働き方改革の推進」については、前年より確実に改善したものの、成果指標を達成できなかった。引き続き業務を3つの観点(①基本的には学校以外が担うべき業務、②学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務、③教師の業務だが、負担軽減が可能な業務)に分けてさらなる業務改善を進めて行く必要がある。</p> <p>・「唯一無二の誇り高き学校づくり」については、様々な取り組みを通して生徒の地域に対する想いの深化や自己有用感の向上につながるような取り組みを進めたい。特に導入2年目となるコミュニティ・スクールについては前年度の取り組みの継続とさらなる発展を目指していきたい。</p>
2 学校教育目標	他者を尊重し、誠実で豊かな心と大きな志をもって逞しく未来を切り拓く力を育てる。
3 本年度の重点目標	<p>(1) 授業・進路指導の充実によって、あくなき探究心の下、確かな学力・技術向上を図り、生徒の進路保障を実現する。</p> <p>(2) 教育活動全体を通して豊かな心を育み、生徒の人的成長を図る。</p> <p>(3) 学校体育・学校保健等の充実によって、健やかな体を育み、生徒の逞しい成長を図る。</p> <p>(4) 不断の業務改善・意識改革によって、教職員のワークライフマネジメントを推進する。</p> <p>(5) コミュニティスクールの充実や普通科改革、商業科・食品調理科の更なる魅力発信によって学校全体の魅力を高め、志願者増を図る。</p>

4 重点取組内容・成果指標				主な担当者
(1) 共通評価項目				
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
●学力の向上	○「わかる授業」「できる授業」の実践	○授業の進度や内容が適切であると思う生徒を85%以上、授業をおとして学力が向上したと思う生徒を85%以上、主体的に学ぶことができていると思う生徒を90%以上にする。 ○新学習指導要領の実施2年目に伴い、次年度の指導計画を12月までに完成させる。また、評価方法の検討を継続させる。 ○ICTを活用した学習支援を実施する。	・各教科2件以上の公開授業を実施し、事後に意見交換等を行う。 ・授業評価アンケートを年2回(7月、12月)実施し、生徒の学習状況を把握し、授業改善を行う。 ・教科会議(適宜)、教務委員会(3回以上)を行い、年間を通して教育課程や評価方法等の検討・研究を進める。 ・欠席等の生徒がいる場合には、オンライン授業を確実に実施し、自宅学習の支援を行う。	教務部
	◎自己の能力を高め、社会に貢献しようとする大きな志を持つ生徒の育成 ○進路指導の充実と生徒の進路保障	○進路実現を通して自らが社会に貢献したいと考える生徒を90%以上、3年生の進路指導に対する満足度を90%以上にする。 ○平均偏差値50以上の教科・科目数を前年度以上にする。 ○国公立大学志願者の合格率を70%以上にする。 ○4年制大学における推薦型・総合型選抜の合格者数を前年度以上にする。 ○就職希望者の就職率を100%に、県内就職率を75%以上にする。	・進路講演会を各学年1回(3年生6月、2年生2月、1年生12月)、進路ガイダンスを3回(6月、7月、3月)実施する。 ・進路講演会等でこれからの未来社会と社会貢献の視点から、各自の進路希望を考える機会を設定する。 ・日本語リーディングリテラシーテストを導入し、思考力・読解力の変化を分析し、教科指導に生かす。 ・進路検討会を3年生4回(4月、6月、11月、1月)、1・2年生2回(5月、12月)実施して生徒の志望状況や課題を共有し、面談を通して適切な助言・支援に努める。	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○誠実で豊かな心を身につけ、人的に成長したと答える生徒の割合及び自己有用感が高いと思う生徒を期首と比較して5ポイント以上向上させる。 ○今年度ボランティア活動に参加した生徒をのべ300名以上にする。	・人権・同和教育に関するHR、講演会、職員研修を実施する。 ・道徳教育の全体計画に基づいて授業を実施する。 ・ボランティア活動に関する情報を提供し、参加を促す。	保健指導部 企画研修
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめについて相談しやすい雰囲気があると思う生徒85%以上にする。 ○いじめに対する組織的対応ができていると思う教員85%以上にする。	・いじめアンケートを5回(5月、7月、10月、12月、2月)実施する。 ・いじめ認知・認知の対応マニュアルの見直しを行う。 ・いじめの対応についての職員研修を年間に1回以上行う。 ・情報モラルに関する指導を行う。	生徒指導部
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒を85%以上にする。	・望ましい食習慣や食の自己管理に関する情報を保健だより等で3回以上提供する。 ・食習慣と生活習慣に関するアンケートを2回実施し、結果をもとに必要な指導を実施する。	保健指導部
	●「安全に関する資質・能力の育成」	○主体的な取り組みをおとして自転車通学生のヘルメット着用率を50%以上にする。	・生徒会や部活動等にヘルメット着用に向けた主体的な取り組みを促す。 ・ヘルメットに関する情報提供を行う。	生徒指導部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○年休取得14日以上の職員を85%以上にする。	・業務効率化のための提案を3回(8月、12月、2月)募り、素早い改善を行う。 ・「上限時間」を職員の目に触れる場所に掲示する。 ・時間外在校時間が45h/月を超えた職員には「上限時間」に関する説明及び時間外在校等時間削減のための面接を行う。 ・年休取得状況を毎月集約し、年休取得を呼びかける。	管理職
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				
重点取組				主な担当者
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合を80%以上、教職員の割合を90%以上にする。 ○高校入試及び進路希望調査における志願倍率を1.1倍以上にする。	・運営協議会を年度内に3回実施する。 ・旭ヶ岡キャリア塾を11月までに開催する。 ・本校生徒による小中学生対象の教室(小学生対象高校生ティーチャー、中学生対象パソコン講習会等)を行う。 ・生徒の主体的な活動を支援していく。 ・教務委員会を毎月1回以上実施し、普通科の新コース導入に向けて学校設定科目を12月までに固める。 ・学校だより及び学校HPの見直しを10月までに行う。	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
----------------	----------------------------